

---

## ～中央大学 学生生活実態調査概要 2021～

---

### ま え が き

本学では、学生生活実態調査を1972年から実施しており、この報告書は2021年9月1日～10月29日に本学の学部学生を対象にアンケート調査を行った結果をまとめたものです。回答数は1,076件でした。

主な調査内容は、大学等の選択理由、入学後の満足度、大学への期待・要望、経済、ライフ(大学生生活)、正課教育、正課外活動、不安・悩み、進路などです。本書について、ご活用いただければ幸いです。

なお、詳細な集計数字については、既刊の「2021年度学生生活実態調査報告書」をご覧ください。多摩キャンパスにおいては学生部事務室学生生活課、後樂園キャンパスにおいては都心キャンパス学生生活課で閲覧できます。

最後に、本調査にご協力いただきました学部学生のみなさんに感謝いたします。

2023年1月

学生部長 鳥居伸好

## 調査の分析総論

本調査は、中央大学学生の生活や意識をアンケートによって理解しようとするものである。特に注目すべきは、コロナ禍前の2017年(「前回調査」と称す)の実施結果と、コロナ禍中の2021年(「今回調査」と称す)のそれが、同一の60に及ぶ質問項目(基本属性、経済状況、学習状況・授業満足度、課外活動、就職活動など)から時系列的に比較対照できることにある。また、一部項目については、全国私立大学協会の会員校全体の調査結果(「全私協調査」と称す)とも比較可能であることも、興味深い。

以下で、その特徴的な調査結果の整理を試みたい。

### ①基本属性：就学の目的は学歴取得と自分でしたいことを探すこと

今回調査では、自宅外通学者が半数以下に減少している。一般入試・センター併用など学力試験による入学者は、全体のほぼ6割。推薦入試等の入学形態が増大している。進学を問うと、「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が最も多く7割弱、次いで「自分のしたいことを探すため」3割強。中央大学を選んだ理由は、「自分の実力(偏差値)に合っていたから」、「就職に有利だと思ったから」、「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」がいずれも3割程度の回答で上位に並ぶ。所属する学部に入學してよかったかを尋ねると、どの学部でも6割以上の回答率で「よかった」とする。よかった点のベスト3は、「学びたい(学問)分野が学べたこと」(6割弱)、「知識や技術が身についたこと」(5割弱)、「自由な時間ができたこと」(4割弱)となっている。だが、設問文が改訂されてはいるが、「信頼できる友人を得たこと」がコロナ前の前回より減少した(3割弱)ことは気になる。

### ②学生生活と経済状況：比較的余裕のある学生の暮らし向き

「学生生活が充実している」という回答は、コロナの影響もあり、前回調査よりかなり減少し、各学年でほぼ2割から3割にとどまる。男子学生では、「WiFi、トイレ、更衣室の整備、生活面でのインフラを整備してほしい」や「学生食堂を充実してほしい」などが大学に改善してほしいことの上位にあり、女子では、「ロッカー等の物置き場を作してほしい」などが上位にある。授業期間中における1か月の家族からの援助は、「1万円以下」が半数を超える。自分で働いた収入も、中央値で「4~5万円」となり、1か月の奨学金も「4~5万円」となっていて、総収入額は、「10~15万円」の層が最も多く、15%前後となっている。他方、支出をみると、自宅外学生の家賃・光熱水費の最頻値は「6~7万円」、食費・外食費も「5千円以下」と少なく、通信費も自己負担は最頻値では「なし」となっている。

経済状況についてたずねると、「苦しい」「やや苦しい」合わせて5割強となっている。「学費は負担になっている」という者も、「負担」「やや負担」を合わせて、7割強になっている。だが、前回調査より増えているわけではない。奨学金をみると、「受けている」学生は7割ほどで、他方、受けていない者の理由を聞くと、「受ける必要がなかった」が半数弱ある。とはいえ、「返済の必要のない奨学金の充実」を望む声は半数をこえる。アルバイトや就労を聞くと、常時している者は4割強、就労の月当たり時間数は、「21~40時間」が最頻で、その目的は「遊び、旅行、趣味の活動などにあてる」が7割弱、「社会勉強として」が4割強と並び、生活の費用のために就労しているとはいえないようだ。

### ③学習活動や課外活動、生活時間：ネット利用の時間に押し出される自己学習時間

平均の授業時間は1日あたり「4時間以下3時間まで」が3割弱と最も多く、低学年の1、2年生中心の回答であり、ついで「3時間以下2時間まで」が2割強であり、高学年3、4年生中心の回答となる。前回調査よりはやや短くなっている。学内で1日あたり自習時間は、前回より短くなり、「なし」が7割強。エクステンションの講座や学外の講座の時間も少数の者にしかみられない。クラブ・サークル等の課外活動も「なし」が6割強と最も多くなる。これら傾向は、全私協調査の結果とも通底している。結果、キャンパスへの1日あたり滞在時間は、「なし」3割、「2時間から1時間まで」が1割5分ほどとなり、低学年学生は長い傾向にある。通学時間も、「2時間から1時間まで」が3割ほどいて、「1時間以下」は4割強にとどまり、全私協調査よりも、郊外型大学ゆえか、長めになる。

ならば、自宅での学習時間はどうか。自宅自習時間は、「2時間以下から1時間まで」が最頻で3割あり、オンライン授業も増えた中で、前回調査より10ポイント近く長い。自宅での予習復習時間も、同様に「2時間から1時間まで」が2割以上いて、全体にやや長くなっている。他方、メールやゲームなどの1日あたり使用時間は、最頻で「3時間から2時間まで」2割強、さらに「4時

間から3時間まで」も1割5分いて、ネット利用の拡大の中で、前回調査より大幅に使用時間が延び、学習時間をしのいでみえる。就寝時間は最頻で「7時間から6時間」4割弱で、「午後12時から午前1時」には3分の1ほどの学生が就寝し、思いのほか健康的である。

### ④大学の講義・設備、成績状況、課外活動との両立：高まる授業受講の満足度

教授陣の授業は「満足」「ほぼ満足」合わせて8割近く、各学部とも高い。前回調査より、20ポイント以上も満足度が上昇している。カリキュラムの構成についても、授業内容についても、同様の評価。ゼミなど少人数授業では、やや低くなり、「満足」「大変満足」合わせて6割ほど。やはり前回調査よりかなり増加した。大学の施設設備には6割強、正課教育全体には8割弱が「満足」と回答しており、コロナ禍でも前回より高い評価になっている。

科目履修の重点は、「専門的知識が身につく」「教養が身につく」「知的刺激がある」が上位3項目で、3割ぐえ。授業に困難を感じたことも7割強の者があり、その理由は「高校ではほとんど学ばなかった内容だから」で6割弱、「理解していることを前提に講義がどんどん進むから」で4割強となっている。結果、自分自身の大学の成績を「上位」「最上位」と思う者が3割弱となっている。他にも、学内外の正課外講座を受講している者の総数は3割強あり、資格試験対策あるいは語学などが多い。「インターンシップに参加したい」者も半数弱に及ぶ。

課外活動に積極的に参加している者も3割はおり、学内の公認団体で、文化芸術活動や体育会活動が多い。「友人を得る」という目的が多く、「友人や居場所を得た」ことに満足する学生が7割弱と多くなる。授業との両立も8割ほどができていてと回答するが、参加しないと回答する者は「勉強と両立できない」と回答しやすい。入学後のボランティア活動参加者は1割強と低いが、児童福祉関係活動が多く、「社会勉強」になったという声が多い。

### ⑤自分の興味関心：大学の勉強・出席自体を大切に考える学生たちの増大

興味を持ってやっていることでは、「大学の勉強」が前回より大幅に増加し、5割弱。次いで、「資格の取得」「アルバイト」「クラブサークル活動」と続く。それゆえ、大切にしていることも、「必要な単位を取得し、進級卒業すること」が半数で40ポイントも前回より増加した。次いで、「経験を豊富にし、見聞を広めること」「専門的知識・技術を習得すること」が3割ほどで続く。

他方、入学後にメンタルヘルスが「悪い」と感じる学生が2割強あり、1か月に書籍を「ほぼ読まない」学生も4割強、SNSトラブルに巻き込まれた経験がある学生が7%ほど、薬物も「使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わない」と思う学生が約1割。課題を抱えつつ生活する学生も少なくないといえる。

### ⑥対人関係や悩み、進路選択：就職や将来への不安が強い学生たち

最後に、対人関係や悩みの相談についてみる。「自分のことを何でも話せる友人がいる」学生は学部にかかわらずほぼ7割強。やや全私協の結果より低い。不安の中身は、「就職や将来の進路」が6割弱と突出して多く、次いで「授業など学業」「友人等の対人関係」が続く。相談相手には、「友人」が6割弱と多く、次いで「家族」が5割弱あり、ともに突出している。大学生生活でハラスメントを受けたと感じたことがある者は、3%ほどに留まる。その多くは、「セクシュアルハラスメント」としており、「性被害」を訴える声もある。その際相談したのは、「友人や先輩など」が最も多く、「誰にも言わなかった(言えなかった)」という回答も数多い。

就職への不安では、「就職できるかどうか」が5割強、「自分の適性にあった職業が選べるか」4割弱、「就職すること自体」3割強がベスト3。具体的な進路としては、公務員、民間企業と続く。「安定しているところ」「給与の高いところ」を希望する割合が高い。自分の能力としては、「パソコンやインターネットを使いこなす力」や「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」に自信を持つ学生が多い。そのため、「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」「外国の本を読んだり、外国語で話をする力」「専門的知識をもとに論理的に考える力」などを求める声が多い。

### ⑦結語：安定性と柔軟性のはざままで

全体に、コロナ禍の影響もあり、まじめに大学に出席して就職も順風にと、リスクの少ない安定した学生生活を望む者が多いとみられる結果であった。サークルや学外講座・ボランティアなどに新たに挑む者は少数派であり、高校のあり方に近づいているようにもみえる。学生に対して、多様な人との出会いや未知な経験も可能なような大学教育の可能性を広げていく努力が、今後必要に感じられる調査結果であった。